

第1回 くまもと未来会議議事録

と き 平成20年10月10日(金) 17:00~19:00
ところ 都道府県会館 402 会議室(東京都千代田区平河町)
テーマ 「外から見た熊本のイメージと、私が思う熊本の可能性について」
出席者 斉藤 惇 委員(株式会社東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役社長)
崎元達郎 委員(熊本大学 学長)
田中浩二 委員(九州旅客鉄道株式会社 相談役)
橋田紘一 委員(株式会社九電工 代表取締役社長)
坂東眞理子委員(昭和女子大学 学長)
蒲島郁夫知事

【内田企画課長】

定刻になりましたので、第1回くまもと未来会議を開催したいと思います。

私は事務局の熊本県総合政策局企画課長の内田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、姜委員は、急な御用によりまして、本日御欠席という連絡が入りましたので、お伝えしたいと思います。

まず初めに、会議の公開について事前の確認をさせていただきます。本会議を公開とし、傍聴や議事録についても県の規定に基づいて行いたいと思いますので、御了解いただきますようお願いいたします。

本会議は、知事が議長を務める旨、要綱で規定しております。

それでは早速ですが、これより、議長が議事の進行を行いますので、蒲島知事、よろしくお願いいたします。

【知事挨拶】

今日は、皆さん、本当に御多忙の中、くまもと未来会議へ御出席いただきありがとうございました。とりわけ、熊本、福岡からおいでいただいた崎元委員、田中委員、橋田委員のお三方には、東京まで来ていただいて、大変恐縮いたしております。

私が知事に就任して、もう6ヶ月近くになりました。皆さんにも選挙の時には大変お世話になりました。4月17日に就任しましたが、私自身の目標は、県民の総幸福量を最大化するというのを唯一の目的に、現在頑張っているわけです。

そのような中で、この「くまもと未来会議」というものを、熊本県の将来の飛躍につなげるために、熊本県の可能性について、長期的かつ大所高所からご意見をいただきたいと思い、設置いたしました。

皆さんも、熊本に縁の深い方がおられますので、既にご存知だと思いますけれども、熊本は、自然や歴史、文化、優れた人材など、世界的に誇れる豊かな資源を有する九州の「雄都」でもあります。そして、大きく飛躍する可能性を秘めています。

しかしながら、その可能性を、県民自身が、或いは国民自身が、十分に実感するところには至っていない、というところにあると思います。

それから、熊本県は、危機的状況にある財政の問題、永年の問題であった川辺川ダム問題、水俣病問題など多くの課題を抱えております。

私は、この厳しい状況の中にあるからこそ、将来の熊本は、より夢の大きい県ではないかと思っておりますし、現在、将来に向けた種まきをしなければならないと思っております。

一つの懸案事項でありました川辺川ダム問題では、私自身が、9月11日に決断を下して、白紙撤回、そしてダムによらない治水対策を行うという提言を国土交通省に対して行いました。幸いにして85%の県民がその判断を支持してくれましたので、私自身もほっとしているところです。

私はこの「くまもと未来会議」を、「賢人会議」と呼んでおります。それは、委員の皆様が本当に素晴らしい方ばかりで、この「賢人会議」にふさわしいメンバーであると確信しているからです。そして、皆さんとともに、熊本の未来を切り拓く大きな力になるものと確信しております。

折しも、朝日新聞の地方版に、今日ご欠席ですけれども、姜教授の「熊本への手紙」という記事が掲載されておりました。そして、若者に向けた次のような一文がありました。

『有為の学生諸君、東京に上り、再び、熊本に戻って来てほしい。自分の故郷を再び甦らせる気概をもって。わたしも残された人生をそのために費やしたいと思うから。』

この言葉に、私は深い感銘を受けました。私自身も、熊本を愛することによって、それ故に、故郷に戻った一人でもあります。そして、気概をもって臨めば熊本の夢は叶うと、心を強くしました。

皆様のあふれる知性と豊かな見識を、熊本の未来のためにご提供いただければ幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございます。

それでは、委員の皆様の御紹介をさせていただきたいと思えます。初対面の方もいらっしゃると思いますので、皆様には大変申し訳ありませんけれども、自己紹介でお願いしたいと思えます。

では、斉藤さんからお願いします。

【斉藤委員】

東京証券取引所の斉藤と申します。私は熊本の済々黌高等学校を卒業して、こちらの大学に参りました。それからあまり熊本へ帰ったことはなかったのですが、実は産業再生機構という政府の機構に入った時、その第1号の案件が九州産交バスでした。その頃から再び熊本に通いまして、ある程度再生できたかなと思っています。

今、いろいろ話題になっていますが、'87年当時も米国は大変な不況で、どうやって再生するかがメインのテーマでありましたけれども、実は、日本の資金を使って、アメリカの都市開発というプロジェクトを随分進めました。その時使った技術が、今問題の証券化技術でありますけれども、これを使って世界からアメリカに金を持ってきて、アメリカの衰退した産業の再生に成功したことがあります。その技術を、産業再生機構では逆用しまして、海外からも国内からも資本を入れて日本の産業41社を再生することができました。

そういう経験もありまして、私は、たいしたプランも考えもないのですけれども、知事様に、こういう委員会に参加しろというご指名でございましたので、出席いたしました。よろしくお願ひいたします。

【崎元委員】

熊本大学の学長をしております崎元でございます。

私自身は熊本生まれではないんですが、神戸で育って、大学は大阪でしたけれども、直後、助手を1年やって、昭和48年に熊本に参りましたので、36年目でございます。ですから、人生で熊本が一番長くなりました。学長職も、今、大学法人化ということで5年目を迎えますけれども、法人化の1年前か

ら1期目を務めまして、今2期目でございます。

県とは以前から、前の県の総合計画の推進会議とか、大学自体も県の施策と手を組んで色々なことをやらせていただいております。これからもそういう意味で、熊本大学のキャッチフレーズは、「地域に根ざし、国際的に存在感を示す大学」ということで、リージョナルなセンターとしての機能と、国立大学としてのナショナルセンターの機能の2つを伸ばしたいと考えています。その中で、熊本県の地場産業等の発展にも寄与したいと考えております。どうぞよろしく願いたします。

【田中委員】

JR九州の田中でございます。私は熊本県の天草の生まれでございます。ただし、天草には2～3才までくらいまでしかおりませんで、その後は大分や福岡に移りました。大学を出まして国鉄に就職しましたが、ご存知のように、今から21年半前に分割民営化されました。その際、九州出身ということでJR九州に配属となり、現在は相談役となっております。今は主として観光関係の仕事をしておりまして、「九州観光推進機構」という組織が3年半前に官民合同で立ち上がりましたが、その会長としての仕事をいろいろとさせていただいております。

10月1日に発足したばかりの観光庁の長官、観光地域振興部長等にも先程ご挨拶してきたところでございます。また、明日から3日間、代々木公園で「来て見て食べて 感動！九州 観光・物産フェア」というイベントも開催するところですので、「くまもと未来会議」のためだけに上京したわけではございませんので、冒頭の知事ご挨拶のように恐縮しないでいただきたいと思っております。

知事はこの会議を「賢人会議」と先程仰られましたけれども、私は在福岡の熊本県人会の会長を先般まで務めておりまして...「賢人(県人)」の違いで私一人だけ愚人が混じってしまった感がありますが、どうぞよろしく願いたします。

【橋田委員】

九電工の橋田です。私は昨年九電工に移りました。それまでは九州電力に勤務し、昭和41年の入社以来、主に経理の仕事を25～26年、それから色々な仕事を経て、最後は総務部長を5年間と経営企画に4年間携わっておりました。九州電力在職中に、九州域内や福岡地区の活性化に関与しておりました。その関係で、8年くらい前に蒲島先生とお知り合いになりました。今、蒲島先生とお呼びしてしまいましたけれども、これまでずっとそう申し上げておりましたので、知事さんと言うよりも呼び慣れております。福岡で国際政治学会を開催された時も、知事さんが事務局長となり、福岡の経済界が応援したこともございました。以後、いろいろな関係でお付き合いをさせていただきましたので、この会にお声掛けいただいたのではないかと考えております。

実は、私は、平成3年から5年まで、九州電力の熊本支店の事務次長として勤務した経験があります。その時に60年ぶりくらいの大きな台風が襲来し、熊本で最大の台風災害を受けました。九州電力として、復旧に従事したこともあり、熊本には思い入れがたくさんあります。

熊本はすばらしい地であると思うのですが、いまひとつ発展しないことを残念に思っている一人でもありましたから、「新熊本派」的なことをよく知事さんに申し上げておりました。それならこの会議で知恵を出して欲しい、ということだったのかと思います。お役に立てるかどうかはわかりませんが、気持ちだけはしっかり持っておりますので、どうぞよろしく願いたします。

【坂東委員】

昭和女子大学の学長をしております坂東と申します。皆さんは熊本とは大変ご縁の深い方達ばかりなのに、（私自身は）直接の経歴とか仕事の面ではあまり熊本と関わりはなかったのですが、いろいろな機会に、（だいたい熊本の女性から声が掛かることが多くて、男性からはあまり声が掛からないのですけれども、）しばしば講演や温泉に行って、大変熊本ファンであるということで、お声を掛けて頂いたのかなと思います。

知事がハーバード大学、東大におられる頃からずっと尊敬申し上げていたのですが、直接数年前に話をする機会がありまして、それ以来大ファンで、正直な話、知事になられるとは夢にも思っていなかったので大変びっくりしました。政治学を実践していかれる中で、ぜひ夢を実現して頂きたいと心から祈っております。

熊本の経済や産業の発展という点に関しては、きっと皆様が専門的な提言をなさると思いますが、私がお願いしたいのは、「地域の品格」とでもいうのでしょうか、知事は総幸福量とおっしゃいましたけれども、GDPでは測れない地域としての魅力と申しますか、品位と申しますか、儲けるために何でもやるのではなく、美しい風景を保つためには多少経済的な部分については損をしてもいいよという気構えを持って、美しい、品格のある地域を作っていただきたい。そのためにも、人を育てるということ、ぜひ中心に考えていただきたいと思います。特に熊本の女性たちのエネルギー・パワーはものすごいということを私はひしひしと感じておりますので、その方たちがのびのびと能力を発揮なさるとい社会整備も含めて、人を通じての品格ある地域づくりというのをぜひお願いしたいと思っております。

【蒲島知事】

ありがとうございます。

今坂東さんから地域の品格という話が出ましたけれども、ぜひ将来は、「熊本の品格」という本を書いていただきたいと思います。（会場笑い）

今日は残念ながら、3名の方が欠席されております。姜委員は、とても急用ということで、出席の予定でしたが、たった今電話があって、今日出席できないということでありました。それから、熊本経済同友会代表幹事の栗原肥後銀行頭取、そして、以前日銀熊本支店長で、その後日銀の理事になられました松島正之さん、現在クレディ・スイス証券の会長をされております。

その2名の方から、事前にペーパーをいただいておりますので、事務局の方からご紹介させていただきます。

【内田企画課長】

お二人からは、お手元にお配りしておりますとおり、事前にご意見をいただいております。

栗原委員からは、農林水産物、ものづくり、観光資源の活用等のご意見をいただいております。

また、松島委員からは、「熊本夢牧場」の創設、さらに、ワーク・ライフ・バランスに資する「心地よさ」を全体コンセプトにした地域再生というご意見をいただいております。詳しくは資料をご覧くださいと思います。

【蒲島知事】

それでは、議事に入る前に、この会議の運営について、ここでお諮りしたいと思います。

この会議は、何か決まった具体的な課題が与えられているわけではありません。最終的に提言や報告をまとめるといったことも必要ありません。いわば、サロンのような自由な意見交換の場と考えていただければよろしいと思っておりますので、ぜひ、自由にリラックスしてご意見をいただければと思います。

とはいっても、ある種ポイントがわからないと発言ができないと思いますので、今日は「外から見た熊本のイメージと、私が思う熊本の可能性について」というテーマを設定しました。

熊本には、優れた人材や古来より受け継がれた歴史、文化をはじめ、阿蘇・天草など世界に誇れる自然や景観、自然の恵みがあり、宝である農林水産物など豊かな資源や財産があります。

しかし、その地に住まう者にとっては、身近過ぎるあまり、それらの可能性に気づかなかつたりすることがあります。

そこで、全国、九州、あるいは世界的に活躍されている皆様方に、外から見た熊本のイメージが一体どのようなものか、私たちが気づかない熊本の可能性は何か、私たちの夢や未来はどのように広がっているのか、といった視点で、まずは自由にご意見を頂戴したいと思います。

急に言われると難しいかもしれませんが、松島さんとこの前話した時に、熊本の夢農場を造ったらどうかという提案をいただきました。つまり、今は、保護主義的な農政が行われているわけですが、世界を目指して、輸出を目指して、この熊本が夢農場を作るというアプローチをしてはどうかと。そして、経済同友会でもそういう議論をしているというお話がありました。今、とても農業が疲弊しておりますが、むしろ疲弊しているからこそ将来の夢があるのかなと思っています。それが松島さんのご意見の一つです。

どうぞ、ご自由をお願いします。

【齊藤委員】

2年くらい前に熊本日日新聞に頼まれて、「熊本よ、偉大なる田舎になれ」という文章を書いたことがあります。熊本も前の知事さんともいろいろプロジェクト（企画・事業）について話しました。富士フィルムですとかいろいろな企業を連れてくるという大変な努力をなさっておられ、これはこれでいいと思うのですが、坂東先生がおっしゃった様に、やっぱり今後何が日本で本当の価値を生むかということをやっとだけ長く考えると、プロダクション（生産業）というのはどうかと思います。もちろん、今も言われますようにマニファクチャリング（工業）が大事だと、工業技術が日本を支えてうんぬんという話がよくあり、非常にそれは快く聞こえるんですけども、そう考えても工業技術による先行というのは後進国にキャッチアップ（追いつかれること）されるんですね。世界の歴史でもイギリスがアメリカにキャッチアップされたし、アメリカがITを中心に引っ張ろうとしましたが10年も持たなかったですね。インドや中国、もちろん日本にキャッチアップされました。

日本にも優れた技術があることはもちろん認めますけれども、こういうマニファクチャリングだけで日本、或いは地方を引っ張ろうとしても論理的に成り立たないと言えます。人口も減っていることは歴然たる事実ですし、高齢化が進んでいるのも事実です。生産メーカーから見ると、日本の労働者を使って生産しても世界には勝たないわけですね。日本の労働者の賃金が中国やインド並に下がれば別ですけども、そういうことはありえないわけですから。中国やインドの技術者のレベルというのは、先生方もご存知だとは思いますが、非常に高いんですね。教育水準も高く、ひょっとすると日本の技術者よりも高い。ところが賃金は10分の1とか5分の1なんですね。当然世界で競争するマニファクチャーというのは、ほとんど外国で作っているということです。そういう状況で工業主体で引っ張ってきて

も、瞬間的には悪いことはないと思いますが、そこで水が汚染されたり、空気が汚染されたりするような代償を考えると、長期的にはバリューがあることではないのではないかなと思っております。

そういうことで、何を熊日で提言したかということ、私は飛行機会社も再生したのですが、スカイネットアジアというのが今熊本で飛んでいるかもしれませんが、なかなかこれが熊本便は赤字で大変だったので、どうやって熊本へ旅行者を連れてきて何をさせるか。熊本は熊本城も立派になさったんですが、ご案内のとおり熊本の観光の問題はお客様の「通過」なんですね。ステイしない。泊まらないんです。大分の別府の方へ行って泊まるか、長崎の方で泊まる。留めるという作戦を打つと付加価値が上がるんだと考えました。

それでスペインのことをご紹介したいと思います。スペインはGDPの30数%が観光事業だと思えますが、それは国を挙げた政策があって、スペインは散歩道を造っているんですね。一日5、6時間から8時間くらい歩くと、昔の古城があって、中は近代的なホテルなんですけど、そこでゆっくり景色を楽しみ、翌日も歩くとまた古城があると。これが1週間くらいスペインをずっと歩いていけるんですね。これが、ものすごくヨーロッパ人を中心に成功しているので、熊本の空港から人吉まで、すごい田舎道を作れと。むしろ棚田を作って、水を綺麗にして、熊本の美味しい野菜と天草の美味しい魚、これは高くてもいいからですね、徹底的な田舎政策を打ってはどうですかという提案の一つしました。

もちろんこれは、いろいろ難しい問題があるということもわかったうえで、しかし、水、空気のバリュー（価値）の方が、マニファクチャーするプロダクトよりも私は将来バリューが上がるだろうと思っております。今日は田中さんがおいでになっていますけれども、JRの方に水を中国に輸出してはという提案をしたことがあります。熊本の水がいいと。熊本の水道水は天然の水ですから。日本中ほとんどない水なので、本当にタンカー造って水を売りに行こうかという準備もなさっているということです。

もう一つ、この資料は残していきますけど、韓国とシンガポールが今何をやっているかというプロジェクトがあります。今韓国はウォンが暴落して具合が悪いとは思いますが、いずれにしてもこれは、国家戦略で作っていきます。韓国の地方再生計画ですが、仁川のところに、いわゆる世界の最高レベルの医学をここに集めているのです。これはほとんど税もかけないようにして、アメリカや日本やヨーロッパの医者を集めようと。実はこれはシンガポールはやっているんですが、これは韓国のプロジェクトです。患者は、一日何百万円払ってもいいような中東の王様とかアメリカの大金持ちなどが1ヶ月ステイするような素晴らしい施設を作っています。シンガポールにはもうありまして、ワーク（稼働）しています。中東のロイヤルファミリーは今、シンガポールに行って治療を受けるのですが、フランスや東大の先生がおられます。国としては、そこにある医療技術を、言葉を悪いのですが、盗もうということなのです。

そこで、熊本大学医学部を中心に、熊本を医学センターにできないのかと。日本全国のお金のある人というところこそ怒られちゃいますけど、保険なんか使わなくていいという人もいっぱいいるわけですから。熊本に行くと、世界の医学が（あるという構図）。一時的には住民税とかの優遇をしますけれども、トータルとしては産業が伸びます。韓国は2、3年で作り上げる計画です。シンガポールは既に動いている。実は、日本政府は全くこういう計画がないので、関係者にこういうプロジェクトを作るようにという働きかけをしているのですが、熊本は先端を駆けられてということで、少し夢みたくない話も入っているのですけれども、口火を切らせていただきます。

【蒲島知事】

崎元学長は、すぐにでも実行できるポジションでいらっしゃいますか？どうでしょうか？（会場笑い）

【崎元委員】

大変いいお話をいただいたんですけれども、少し宣伝じみたことになるかもしれませんが、後で、教育の話もしたいと思いますけれども、今ご指摘のとおり、やはり熊本は教育県という言葉が今まで使われてきました。細川家以来、細川家の再春館から始まり、肥後医育という言葉もあるように、人材養成並びに教育を非常に重視した豊かな県だったと思います。

今の斉藤さんのお話に戻しますと、肥後医育の伝統が、一時県立の医科大学という形を経ながら、熊本大学の医学部になったわけですが、そういう意味では医学に関しては強い伝統があります。

今、文部科学省の施策で、昨年までは21世紀COEプログラムということで、億単位の、5年くらいの世界的な教育拠点を選定して集中投資するという施策がございまして、昨年からはグローバルCOEというさらにグローバル展開をするような拠点形成を文部科学省が狙うと。例えば医学の分野で10の拠点を選ぶという形で。結局ボーダーが切れなくて14くらいになっておりますけれども、それで、その医学の分野では、本学のエイズ学研究センターが研究拠点として選ばれておりますし、その前の21世紀COEから発生医学、伝統を受け継いできたこの分野もグローバルCOEプログラムという形で、医学系、生命科学系で2つのCOEを持っているということで、熊本大学は伝統に違わず強い力を持っており、国のナショナルセンターとしての機能をそういう部門で受け継いでいると思います。そういうことを活かしながら何かできることがあると思います。

今お話の仁川の地域再生プログラムが、私自身、医学が中心だとは知りませんでしたけれども、アジアに近いということが熊本の特徴のひとつですので、やはり今、アジアに向けて、熊本大学も発信をし、出かけようとしております。その中で九州経済産業局や九経連の鎌田会長等が音頭をとって、「環黄海（イエローシーリム）」の産学官連携技術会議というのが毎年あります。その会議に、学長の会議がついていまして、韓国、中国、日本（九州）から学長が揃って産学連携なり人材交流なりをやるということで、議論しています。昨年、県のご協力もいただいて、熊本で会議を開催しました。今年が韓国の当番で、この10月に仁川でありますので、今ご紹介のあったところをぜひ見てこようと思います。

そんなことで、特に提案もまだしておりませんが、今口火を切っていただいた斉藤委員のお話に言付けてそういうお話をさせていただきました。

【坂東委員】

私も、斉藤委員の話に大変触発されたのですが、ぜひ製造業を誘致されるにしても、非現実的かもしれませんが、それと同じ位の土地を確保して、地元に適した木を植えて、鎮守の森じゃないですがその森の中に工場が埋もれるくらいに、工場がむき出しにならないようなことを10年なされると、本当に森に覆われた熊本、工業都市になるのではないかなと思いますので、ぜひ10年くらいの計画で景観づくり、田園づくりをなさったらどうかと思います。特に田園というと、私はイギリスの田園が箱庭のように美しいと思うのですが、あのかなりの部分が、シティでたっぷりお金を儲けた方が、リタイアして、手入れをして、美しい景観を作られたという話を伺います。もし、東京証券取引所でたくさんお金を儲けられた方がいれば、素晴らしい荘園というのでしょうか、個人として、道楽として、バラでもいいし、みかんでもいいし、ご自分の夢を実現する場として、熊本にお帰りになったらいかがですかと、これが最高の、幸福な成功の姿ですよと売り込まれたらどうでしょうか。（会場笑い）

【蒲島知事】

ありがとうございます。私は熊本に帰るとなんだかほっとするのですが、まだ田園風景がたくさん残っています。だから、工場を誘致するにしても、今坂東さんがおっしゃった視点から(誘致してみたい)。でも、なかなか誘致企業というのは倍の土地を買ってくれるところまでいきませんので、必要などろだけという経済的効率性がまだ先行しているのかなというように思いますけれども、ぜひそういう視点で誘致したいと思います。

【崎元委員】

ちょっと関連して申し上げます。

恐らく新幹線という縦の軸がかなりファーストの軸になると思うんですね。それにクロスする横軸、天草、熊本、阿蘇、大分(別府)という、この軸をファーストにしない、スローでいくということをコンセプトに持って、その中に体験型の観光を埋め込んでいくという戦略がいいのではないかと思います。色々なところでそういう議論はされているとは思いますが、ブルーツーリズムとかグリーンツーリズムもありますし、大学の中でもそういうことを研究して根付かせようと努力している人もおられますけれども、先程ご指摘のように、縦の軸で通過されず、そこに留めて、横の天草から阿蘇に通ずるラインで体験型のプログラムを作って、必ず泊まっていたくというようなコンセプトはわかりやすいんじゃないかと思います。

【田中委員】

私からは、熊本県の観光について申し上げたいと思います。

今から12年前の平成8年から、九州全体の観光客、特に宿泊客が毎年少しずつ減っていきまして、そういう危機感から九州観光推進機構ができました。同機構の活動も4年目に入りましたが、昨年末に平成18年の各県宿泊客数の統計が出揃いまして、それを見ますと、僅か30万人足らずではありますが、10年ぶりに九州全体の宿泊客が対前年で増加に転じました。九州7県のうち6県が対前年で増えまして、その中で一番増えたのは、実は熊本県なんですね。ですから、九州全体から見ても熊本県には感謝しなければなりません。1県だけ減ったのは宮崎県ですが、東国原知事が登場する前の結果ですから、今は好調なはずで、平成19年の統計もいくつかの県では既に発表されており、そこでも熊本県は対前年4%近く宿泊客数が増えています。これは一例ですが、このように熊本県の観光は九州観光の原動力とも言えるもので、感謝したい次第です。

今、崎元委員が仰ったとおり、あと2年半で九州新幹線が全線開業しますし、その時に熊本県を通過されないようにするために、天草～熊本市～阿蘇、あるいは人吉といった“横軸”を連携させることが極めて重要だと思います。しかし、阿蘇方面への動脈である国道57号は、熊本～大津間はスムーズに行きますが、その先の阿蘇方面は片道1車線で、休日の朝夕には特に渋滞します。「改良されるかな？」という期待をいつも持っているのですが、未だに動きはないようでして、そうした渋滞が慢性化するのには困るというのが率直な思いです。

また、熊本県の特色は、なんといっても「水」なんですね。水質も水量も日本屈指で、熊本市域の水道水の水源は100%地下水という珍しいものです。豊かな水とそれに育まれる産品は熊本県の大きなセールスポイントです。

そういうことで、観光振興については今でも頑張っていってほしいと思いますが、九州新幹線全線開業という好機に向けて一層頑張りたいと思います。本当にいろいろな魅力があるわけですか

ら、それらを東京・大阪をはじめとする大都市圏にむけて、どのように情報を届けるかということが大事だと思います。

それから、斉藤委員からは「徒歩での観光が大事だ」という意見がありましたが、九州では「長崎さるく博」というイベントが2年前に開催されまして、これが大成功でした。住民ボランティアガイドが自分たちの住む街のことを勉強して、少人数グループの観光客を案内するもので、ガイドとのふれあいや、徒歩でいろいろと見てまわる楽しさが観光客にも大変好評でした。そこで、ぜひこれを九州全体に広げようと、昨年九州各地で住民ガイドによる徒歩での観光を「九州さるく」と銘打って、期間を定めて展開しております。

熊本県の観光に関して最後に一言申し上げたいのですが、これは私が天草の生まれだから言うわけではありませんけれども、天草エアラインについてです。これは極めて便利で、福岡から天草に僅か30分程度で行けます。いくら九州新幹線ができて、あるいは高速道路でも、陸路で天草に行くのは相当時間がかかります。天草エアラインは経営的に苦しいと聞いていますし、ボンバルディア一機でどうなるのかと、どうも心配です。ぜひ、熊本県の官民双方で知恵を絞って、天草エアラインという足を確保していただきたい、と知事に要望させていただきます。

【蒲島知事】

天草エアラインはJR九州の方で買われたらいかがですか。そしたらいつも満杯になるでしょう。あれはとてもいい便ですからね。福岡 - 天草のラインを増発されると可能性があるのではないのでしょうか。

【田中委員】

私も6年前までは社長でしたので、その時であれば明快な返事ができましたが、もう会長も通り越して相談役ですので...回答は控えさせていただきたいと思います。(会場笑い)

【橋田委員】

外から見ての熊本と、熊本をどうしたらいいのかということ併せて申し上げます。今日は熊本ご出身の方もたくさんいらっしゃるので、相当耳障りになるかもしれませんが、平成2年から3年にかけて熊本で勤務したときに思ったことを率直に申し上げたいと思います。

熊本に初めて住んで、「薩摩大将肥後中将」「薩摩の芋づる肥後の引き倒し」ということを言われる機会がよくあったのですが、その時はそれがどういうことなのか、あまり意味がわかりませんでした。

しかし、熊本は水も観光資源もあり、肥沃な土地があり、例えば世界一のカルデラはあるし、南阿蘇は素晴らしい、世界的に見ても熊本ほどいろんなことがそろっている所はないぐらいなのに、どうしてなかなか発展しないのかということを考える中で、今言いましたようなことわざというか、そういうことがネックになっているのかなと思いついたようになりました。

言葉は適切ではないかもしれませんが、当時、熊本の人、福岡・博多に対して、絶対に負けちゃならんとよくおっしゃってありました。熊本は、いろいろな九州管区の官庁の拠点であったわけですが、それが少しずつ福岡に移転したりするたびに、福岡に負けたらいかんとおっしゃってました。私は、博多生まれの博多育ちですが、熊本は何も福岡を相手にしなくていいのではないかと感じておりました。これだけの資源もあって、ものすごい可能性があるわけですから、熊本独自の路線を進めば、福岡を歯牙に掛ける必要はないと思っていたのですけれども、それはなかなか変わらなかったですね。

しかし、最近は、福岡と共存共栄しようという経済界の動きがありまして、4、5年くらい前から福

岡と熊本と計画的な交流がなされるようになりました。熊本の経済界の人達が 20~30 人お見えになって、福岡の人達と交流し、逆に福岡の人達が熊本に行って、という交流が始まりました。熊本の方々とお話をすると、やはり熊本の良さを伸ばして、熊本なりの発展をすべきだというお考えをお持ちの方が増えてきて、福岡も大いに熊本をお手伝いしようということになっていると思います。

そこで、私が、具体的にずっと抱いていたものがありますのでお話をさせていただきたいと思います。やはり皆さんがおっしゃるとおり、熊本の強みは、観光と一次産業であると思っています。一次産業を振興させることと観光は結びつくものではないかと思っております。不適切な表現かもしれませんが、阿蘇を中心に、軽井沢を目指すようなことができる要素があるのではないかと思うのです。南阿蘇を中心とした広大な土地、水もいいし土地も肥えているような所では、酪農と農業を観光資源にできる可能性が大にあるのではないかと思います。さらには、水や安全安心の一次産業産品を、中国に売ることはできないかと。そういうことを考えると、相当壮大な計画が可能でありますし、夢物語ではなく、着実にできるのではないのでしょうか。

それで、例えばの話ですが、一次産業、農業を株式会社にして、また酪農も株式会社化して、そういうことをやりたい人達を、地元はもちろん全国から歓迎して、産学官一体となって取り組むというのはいかがだと思います。特に東京あたりから農業の専門家や大学の研究員などを招聘してノウハウを学び、地元の熊本大学や宮崎大学などと一緒に研究開発し、企業も参加して労働生産性を上げて収益を上げる仕組みを作る。その時に問題になるのは、農業協同組合であり、酪農の組合です。そこの共存共栄を図れないと、きっと事業がうまくいかないと思います。パイを非常に大きくすることを考えると、アジアに対する輸出を頭に入れた一次産業の振興を図れば、熊本の既存の農業協同組合或いは酪農の協同組合の人達が一緒にやってもパイが大きくなると思いますし、利益も出るものと思います。

その時に、観光面ではありますが、国道 57 号が渋滞するために、天草の方にも阿蘇の方にも人がなかなか行かないという問題があります。しかしながら、今さら天草、苓北の方に行く道路を広げても無理があるのではないのでしょうか。そういうことはやめて、海路を使うという方法はないかと考えます。熊本の複数の港から観光用の船を出して、天草西海岸とか天草五橋の下を通過して観光客を運ぶという方法はできないだろうかというのが私の提案の一つです。

それから陸路の方ですが、熊本は、阿蘇などの観光資源がたくさんあるにもかかわらず、点在している観光資源を線で結ぶ工夫が足りないのではないかと思います。例えば隣県である大分と熊本はどれほどの協力関係があるか、或いは高千穂越えて宮崎県と熊本県、熊本県と鹿児島県、というように、熊本だけではなくて、近県を取り込んだ形で、点在する観光資源を線でつないで、観光客を誘致するということができるのではないのでしょうか。これは田中相談役のところの九州観光推進機構で取り組んでおられますが、なかなか具体的に進まない状況です。むしろ、蒲島知事が、大分や鹿児島、宮崎の知事さんと直接交渉されて、観光ルートを開発してはどうでしょうか。それと農業をセットにしていくと、熊本には、例えば芋にしても、すばらしい農産物があります。私も 2 年間で本当に堪能させていただきました。天草の方では、海産物の養殖もできますので、日本で最も可能性のある地域は熊本であるという意気込みで、全国を取り込んででもぜひやってほしいと思います。我々も、九電工も微力ながら応援できることはしたいと思っております。

【坂東委員】

先ほど斉藤さんがおっしゃったことに戻るのですが、散歩道、あれは 39 日間程かけて回るサンティアゴの道ですか？そうですね。

日本でも四国のお遍路さんはなかなかの人気なんですね。一度では回れなくても分けて回るとか。そういう形で行く人がとても多い。ぜひ熊本も点と線を組み合わせて回れる様にすればいいのではないかと思います。

それから、もう一点、よくは知らないのですが、観光客が増えたのは韓国や中国の方ですか？

【田中委員】

仰るとおりで、韓国の方が多いですね。熊本県の外国人宿泊客数は、ここ2～3年で急激に増えて平成19年には約40万人にもなっていますが、その多くは韓国からの観光客です。

【坂東委員】

東京でPRするより韓国や上海や北京、香港でPRした方がいいのではと思うのですが。

【田中委員】

いえいえ、パイが違います。九州への入国外国人数は昨年が約92万人。それに対して、九州域内の宿泊客数は平成18年で約4,300万人と、圧倒的な差があります。

【坂東委員】

桁が違うんですね。

【田中委員】

とはいえ、これから東アジアをはじめとする外国人旅行者が増える傾向にあることは間違いありません。

それに関連しますが、10月1日に観光庁という新しい役所ができました。その観光庁が最初に打ち出した事業は、滞在型の広域観光地となる「観光圏」を全国に整備することで、先般、全国16箇所の地域を初認定しました。九州からは2箇所が認定されましたが、そのうち1箇所は、幸いにも熊本県の「阿蘇くじゅう観光圏」でした。指定地域で観光のためのソフト・ハード整備をするときは、国が最大4割の補助金を交付したり、関係法令の特例措置や要件緩和の実施をしたりされます。ですから、ぜひ魅力的な観光地づくりに活用していただきたいと思いますので、ご紹介します。

また、この部屋にも県内観光地のポスターがありますが、荒尾の万田抗と三角の西港は「九州・山口の近代化産業遺産群」の一つとして、世界文化遺産国内暫定リストに登録されることが先月26日に決定されました。これまで、荒尾や三角はどちらかといえば観光と縁遠かったかもしれませんが、新しい切り口によって、既存のものが立派な観光の目玉になる好例だと思います。

産業遺産に関して言えば、来年4月から、JR九州が「SL人吉号」を熊本から人吉まで走らせることが決定しております。肥薩線は経済産業省認定の「近代化産業遺産群」の一つでもありますし、知事が大事にされた球磨川の自然ともマッチして、大いに観光客の皆様にご利用いただきたいと思っています。SLは小倉工場で一先懸命作り直してしまっていて、来年4月には間に合いますので、こちらもご紹介させていただきます。

【斉藤委員】

橋田さんがおっしゃった酪農ですが、農業の助成はなかなかできないだろうが、スイスはなかなか賢

くて、観光助成といって農業に助成している。その代わり、スイスは犬小屋の色まで国が決めるなど規制しています。

産業再生機構時代、鬼怒川のホテルはほとんど全滅だったんです。これを再生しまして、今、ものすごくお客さんが来ている。現場に降りて経営を見てみると、まず会社になっていないんです。会社のお金とオーナーのお金をごちゃまぜにしてあって、「たばこ買いに行ってくるわ」と売上金からお金を持っていくという状況から始まるんです。我々は仕訳から教えました。再生にあたって国のお金を投入しましたから、オーナーには辞めてもらって送迎バスの運転手になってもらって、10人程度の社員に社長と呼ばせないのに数ヶ月かかって。倉庫まで入って綺麗にすることから始めました。

今、日本はグループ旅行をしないんですよ。農家の方も昔は田植えや刈り取りが終わったりすると旅行されていたが、今はもう無い。グループ旅行は中国の人と韓国の人、特に中国がされる。これをどうやって呼び込むか。非常に温泉をお好きですね。

昔は、鬼怒川へは上野から東武線等で行っていた。JRで行くと不便だった訳です。そこで、我が熊本出身の細谷さん（当時JR東日本）に頼んで、乗り合いをさせてもらったんです。東京から鬼怒川にずっと行けるようになったら、これだけで全然違うんですよ。例えば、鬼怒川のポスターがどの辺まで貼ってあるかを調べたんです。そうすると、JRと繋がっていなかった時は、東武線にだけ貼ってある。これにJRを繋ぐと名古屋までもどこまでも繋がる。すると全然お客さんの数が変わるんですよ。

だから、ちゃんとしたビジネスプランを作って、観光産業として、実は裏では農業育成をする。先ほど（橋田さんがおっしゃったように）株式会社化して。これは政府とぶつかるかも知れないが、熊本は反骨精神でやってみたらどうかと思うんですよ。建設工業の従業員は8割くらい農家の出身なんです。みんな農業をやっていた人が建設会社に入ってるんです。その建設会社が倒産しているんです。あと数年しか持たない。ですから彼らに産業スタイルを変えるという意味で農業をやってもらう。ブルドーザーを使って。別に農地の所有権を売る必要は無いんです。所有権はおじいちゃんおばあちゃんが持つておられればいいんです。ぜひ知事のもとで。成功すれば日本はだーっと行きますので。最初のうちは批判されるかもしれませんが、熊本がモデルになれば、と思うんです。

【橋田委員】

実は、九電工の社員にも農業をやっている人がいます。九電さんの仕事を請け負って、電柱に登って配電線を引いたり、電柱を移設したり、ある面では、キツイ、苦しいなど3K職場みたいに言われているわけですが、彼らは体力が頑健で、50才過ぎまでその業務に従事します。しかし、60才近くになると、危険ということもあり、電柱に登る仕事は禁止しているのです。もともと地元で長くいて、農産物を作りながら仕事をしている人が結構いますので、そのような人たちと一緒に、南阿蘇に一大農場あるいは牧場を作って観光農場化したり、安全安心な食物をつかって、レストランを開き、物販してもいいと思います。事業として大いに広がりがあると思います。熊本には条件がそろっています。高低差もあって、寒いところ暑いところがあり、平面的だけでなく垂直的にも可能性があると思うのです。また、水が素晴らしい。熊本に住んでいるときに、私は、熊本のケーキとコーヒーが日本一美味しいと思いました。農場を営み、観光農園みたいにして、すばらしい食物を売り、併せて温泉も活かして世界各国から観光客を呼び込めば、我々の会社としての事業性も大いにありますし、我々の仲間で建設業をしている人も新しい道の産業として応援できるのではないかと、そんなことも思っています、ぜひ知事にリーダーシップをとっていただければ、建設業の再生にもなるのではないかと考えています。

【蒲島知事】

今、阿蘇の話が出ましたが、阿蘇を世界遺産にするために、今回、申請したところですが、リストには入りませんでした。リストに一番近い最高位の候補資産に入ったわけです。阿蘇の良さは文化庁もよく認めていますので、私は近い将来、十分、世界遺産入りするのではないかと考えています。そういう努力と、今おっしゃったような観光と農業をうまく結びつける。

それから、今のところ、川辺川も清流を守ったという感じですので、それが全国的なニュースで大きく取り上げられましたから、川辺川と球磨川の清流と人吉観光も可能性があります。人吉球磨はSLの運行と熊本で初めて国宝入りした青井阿蘇神社もあり、球磨焼酎もあるなど、資源は熊本に多いので、どのように結びつけるかがとても大事だと思います。そういう意味で九電工にも頑張ってもらって、夢の農場を。ちょうど松島さんも同じようなことを提言されているので、可能になれば嬉しいなと思います。

【田中委員】

観光と農業との関係強化は、多くの方がかなり以前から言われていることです。つまり「グリーンツーリズム」ですね。ただ、農作業は2～3日であれば楽しいでしょうが、実際、生産までの間には大変な苦労が要るわけです。観光農業では、農家にある程度の期間泊まって農作業をやってみるという形があって、これは本物志向ということで受けもいいので、そういうことを推進していくのも一つの考え方です。ただ、そのような場合、一般的な農家に観光客を泊めて代金をいただくとなると、様々な法令等のハードルもあるので、受け入れる側も体験する側も共にハードルの低い体験型農業を志向する考え方もあるかと。

私も、祖父の代まで農業ですから知っていますが、本腰をいれて農業をやるということは大変苦しいものですので、その辺りは十分な検討が必要だと思います。

【蒲島知事】

私も十分知っています。

【斉藤委員】

年を取った人が何をするか。我々の仲間は退職していますから、結局歩くんです。車も運転しませんから。健康にはすごく気を遣うわけです。そうすると、お金はあるような国ですが偏っているんです。1500兆円が家計にあるわけですが、65%くらいは60才以上の人が持っているわけですから。若者は持っていないんです。その対策は別として、熊本をどうするかということになれば、お金を持っている60才以上をターゲットした産業を置いた方が、県は栄えると思うんです。

ならば、そういう人たちが一体何をしたいか。私の東京の友達がアユ釣りに行きます。人吉や川辺川に。全然熊本には関係ない人たちですが、「やはりダムつくらんでよかった」と彼らは言います。彼らは魚を釣るという仲間で、アユのことを季節と共に知ってるわけです。熊本はそういう人々を集める戦略を作っていた方が(いい)。国家戦略としてはいろいろあると思いますけど、熊本という地方をどうするかという点では、そういう戦略もあると思います。

橋田さんもおっしゃいましたが、知事も久しぶりに熊本にお帰りになって、知事職と地元のうらさ方が近いと非常にやりにくいと思います。これが地方では非常に難しいと思います。分権化という問題が中央官庁で言われる。これは地方の行政をやっている者からすると、難しいことを言っているんだと思

います。知事のポジションと議員の方、町の商業の代表の方、いろいろおられます。私たちが九州産交を再生するときに、総スキャンですから。なぜなら強いコンペティター（競争相手）を作るからです。じゃあ、潰すかということ、それもだめ。結局、何を言っているかわからないんです。だからこちらは強行したわけですが、インプリケーション（関わり合い）の部分で難しい面がある。これは、やはり知事の人柄とマスコミの方々とで熊本をどうするかということについて、外からの意見を入れて真剣に討議を繰り返すということが必要な訳です。

【蒲島知事】

確かに、知事になってまだ6ヶ月ですが、実情を知らなかったからいろんな決断ができたのかなと思うこともあります。いろいろ知ると身動きが取れないこともあるような気がします。

ところで、今、皆さんに召し上がっていただいている柿は、我が誇る「太秋」という柿です。ここに飾っておりますが、とても大きくて美味しいんです。やはり熊本の農産物は何かというと水の結晶なんです。水が美味しいから農産物も果物も魚介類も何でもおいしいんだと思います。一次産業と環境は密接に結びついているので、水は守らなければならないと毎日思っているところです。

【田中委員】

昨日まで韓国の済州島とソウルに出張していました。ここに熊本のデコポンジュースが出ていますが、済州島もデコポンが名物で、熊本に習ったのではないかと思います。

齊藤委員が仰られた仁川の例と同じなのかどうか分かりませんが、済州島でも大変な投資が行われています。ソウル大学の医学部と組んで、最高級の医療を受けられるようにして、お金持ちを呼ぶ医療集積を図っていましたが、実際に訪れる前は「カジノとゴルフ場の島」だろうと思ったら、自然が大変豊かな島でして、それを活かした高齢者の悠々自適の村を作る構想もありました。また、韓国人は英語の学習熱が高く、毎年約3万人がアメリカに留学するそうです。中には、お母さんがそれについて行き、お父さんが韓国に残って、離散家族のようになるようなケースもあるとか。そこで、済州島では小学校から大学まで英語のみで生活する地域を作り、そこで暮らせば留学しなくても英語を習得できるようにする、家族が離れ離れになるような事態も解消する、といった構想もありました。そういう夢の実現には何千億円も財源が必要とのことで、国もいろいろと援助しているのですが、済州島全体が特別州になっていて、海外からの投資を呼び込んだり、州がフリー・タックスの店を経営して得た収益、年間50億円と聞きましたが、それも財源の一部にしたりして壮大な計画を着々とやっていました。このように、韓国は元気があるんですね。

【齊藤委員】

皆さんご存じのとおり、現実には日本の対米輸出はほとんど釜山に持って行っている。釜山から見るとアメリカはまっすぐ北に見えるんです。日本海を通過して対米輸出しているんです。ひどいのは、仙台で作ったものも釜山に持って行ってからアメリカに輸出しているものもあるんです。完全に取られたんです。なぜそんなことになったかということ、韓国は、釜山1港に集中したからなんです。日本では、東京都知事も、千葉県知事も、神奈川県知事も、俺の所、俺の所っていうから、国土交通省は三人が満足するような予算しか付けられないんです。すると釜山の3分の1程度のものでできるんです。足せば釜山並みの効力があるんですが、バラバラじゃ効力がないわけです。仁川の空港もご案内のように、今三本の滑走路が走っていますが、もう一本滑走路を造ろうとしています。日本はハブとしては全部やられた

訳です。今、中国がさらにそれを狙っているのです。要するに（日本は）計画性がなく、無駄金を使っているんです。千葉や東京、神奈川の港のメンテナンス費用等と釜山への投資額では、日本の方が高いんです。それにも関わらず、日本のロジスティックなポジション（物流拠点）は全部取られたんです。

今度、トヨタさんが、ロシア向けに、相模原の工場を仙台に移されて、秋田港を国交省の予算で整備されています。トヨタさんは今後は北に作戦を移すんです。シベリア鉄道で運ぶために、秋田港を修復してるんです。だから、今、秋田は建築ラッシュです。北はロシアを相手にした開発があると思いますし、そうしないといけないと思いますが、熊本は中国、韓国、つまりアジアだと思うんです。そういう意味で、今更、ハブを造れと言ってもどうにもならないと思います。現実には三池港は浚渫してもすぐに砂で埋まるんですよ。三井鉱山の再生の際、予算を付けて浚渫したけどダメなんです。だから、ハブなどはダメですが、観光でやるのがいいのではないのでしょうか。

【蒲島知事】

国レベルでは勿論、県レベルでも無駄使いがあるんです。熊本と八代に二つ港があります。私が直感的に見ても、どちらかに集中した方が効率的だと思いますが、みんなを満足させるようにするので、一つ一つが十分でなくなる。

もう一点、空港関係でいうと、熊本の空港は可能性があるんで、福岡にもう一つ造らず、国際線を熊本に回して、新幹線を利用して分担すれば、将来的に九州は一つなので、投資を分けなくてもいいのかなと思ってます。いずれ麻生知事にもこの話をしようと思っています。

【田中委員】

九州新幹線の話が出たので申し上げますが、皆様ご承知のように、あと2年半で全線開業します。一般的に、新幹線の新駅が開業すると「きれいになった」「賑やかになった」となるのですが、熊本駅はそうはならないんです。なぜなら、九州新幹線が平成23年の春に開業しても、熊本駅ではその後約6年間、在来線の高架化工事が続くからです。ですから、九州新幹線が開業しても、現在の駅舎がある在来線側では引き続き工事をやっていて、そのままでは「工事中の駅なの？」と新幹線で来られた方が不快に思われてしまうので、この問題を皆で上手くクリアしないとイケません。

加えて申し上げたいのは、熊本駅の場合、新幹線の駅舎がまずでき、在来線の駅舎も後年できます。これは有名な安藤忠雄先生に設計を依頼している分ですね。そして、新幹線側の駅前広場も整備されますし、東側の在来線側駅前広場もいずれ整備されます。つまり、4つの大きな事業が今後予定されているわけですが、それら相互に整合性を持たせつつ進めてほしいな、と思います。ただ、それぞれの事業主体が鉄道建設・運輸施設整備支援機構だったり、熊本県だったり、熊本市だったり、JR九州だったり異なるんですね。ですので、主体毎にバラバラに事業を進めて、整合性がない熊本駅になってしまわないように、知事にリーダーシップを取っていただきたいと思います。

【蒲島知事】

駅舎の問題。安藤さんに頼んでいますが、知事になってすぐにJRの運輸整備機構に言って、統一性を頼んだのですが既に遅かった。

西口も広場になるので、しばらくの間、そこでも工事が続いています。私が自分でお願いしたのですが、そこを見せない様に、歩いて北岡自然公園まで行けるような入り口にする。その間はベロタクシーとか、人力車とか利用できると良いが、（工事の様子は）塞がないといけないので、そこに熊本の歴史

などを看板で見せられないか。外が見えないけど、歴史が見えるような。そんなことができないかと。

なぜそんなふうに思ったかという、東大の工事でも学問の歴史の看板を100m~200m立てたんです。それが好評で。これも安藤さんのデザインだったのですが、学問の体系がこうなっているのかということ。これを毎日、学生達が見ることができた。そんな考え方もあるので、ぜひ、田中さんにもご協力頂き、看板というか、塀を建てたらいいと思います。

【田中委員】

知事がそれだけ問題意識をお持ちでしたら、安心しました。きつとうまく行くことでしょう。

【蒲島知事】

ありがとうございます。

【崎元委員】

自然、あるいは環境の話でスタートしたので、少し控えておりましたが、そういう部分を支えるための新幹線も含めた基盤の整備は、いろんなところで言われていますが、中々進まない。例えば熊本駅と空港の結節とか、いろんなところで議論されていますが、観光などやるにしても必要となります。港も干満の差が激しいということで、いくら掘ってもという話になるのですが、少し現実的でない話を。というか、夢の話をして、先ほど中国に水を持って行くという話がありましたが、喫水の浅い船が開発できないかなと思うんですね。有明海とかで喫水がとれない所も就航できて、もし中国に水を持って行くとしたら、揚子江をずっと上がれるんです。直接奥まで届けるというような発想ができないかと個人的に考えています。

もう一つ道路の話。私は工学部という土木系のバググランドがありますので気にするのですが、先ほどから出ているような計画を少しずつでもやっていかないと。大分県との中九州横断、延岡との九州横断、西回りの高規格道路。これも非現実的かもしれませんが、夢の話としましては、中九州横断道路をもう少し延長して行きますと、四国に繋がるんです。そこに橋が必要なんです。豊予海峡という5kmくらいの海峡がありますが、これは以前計画された第二国土軸構想の中で、東京湾からずっと豊予海峡を渡ってきて九州にという第二国土軸を作るという非常に日本が元気がよかった時の計画ですが、少なくとも今、豊予海峡の橋を造ること。そもそも四国と本州を3本の橋で繋いだということが失敗なんです。3本要らなかったはずなんです。その1本を豊予海峡にかけて九州と四国を結んでおけば、中国、四国、九州の経済圏を作るという非常に大きな意味があったと思うんです。ですから、九州だけで道州ということになっていくのかわかりませんが、10年、20年のスパンでは、基盤整備を頭において、中国、四国、九州の経済圏、その中で熊本の輝きを考えるのも一つの夢かなと。夢で終わってしまうかも知れませんが、土木専門家としてはそのような夢を持っています。

それから、観光や第一次産業も良いアイデアでやらないといけないんですけども、これをその蒲島知事がどのようにされるかわかりませんが、これまでやってきた県の総合計画なり、3フォレスト構想4戦略ということで、セミコン、ものづくり、バイオ、エネルギー、自動車、情報、健康、ということ、一応作ってきましたので、そういうところも今のような所に配慮しながら、当面はやっていくのだろうと。そういう中で、例えば熊本大学のマグネシウム合金、今、県と一緒に地域結集型ということで20億円ぐらい、5年かけてやっているプロジェクトがあります。やはり、九州が自動車産業ということがバックにあるので、CO2削減につながる軽量エンジン部材ということで非常に有望で、各企業と

も協力してやっています。マグネシウム合金がきちんと産業化できることになれば、これは私の夢ですが、マグネシウムの原石は中国にあるので、原石を中国から持ってきて、熊本にマグネシウム合金の工場ができて、それを九州、日本の自動車産業に供給するという未来の夢を考えています。やはり3フォレスト4戦略は私も関わってきたので、当面県の経済を支える部分としながら、先ほどのような観光、農業、畜産を展開していくのかなと思っています。

時間があれば教育のことをお話ししたいと思います。先ほど申し上げましたように、つい先日私の所にも、県の教育振興基本計画の素案を送っていただきましたが、教育県と言われる熊本県は、やはり教育に関しても力を入れるべきじゃないかと。高等教育の専門人材養成も含めてですね。大学の進学率は全国比較では低いのですが、県内の人達が県内の大学に進学する割合が高いんですね。教育の集積度は熊本市内だけ見ても高等教育機関は8校あって、人口千人当たりの学生数は44という数字が出てきて、福岡で48人ですから非常に教育の集積度が高いと思います。我々はそういう考え方はしたくないのですが、文科省が地域における国立大学の存在価値を示す一指標として、ある国立大学の経済効果はどれくらいかというのを出したことがあるんですけども、熊大の予算規模も400億円程度ですから、経済効果は1,000億を下らないと考えています。また、熊本の高等教育の大学の学長が集まり、「高等教育コンソーシアム熊本」を作りました。3年目に入りますが、基本は「学生の街くまもをつくろう」ということで、新幹線ができて熊本には若者が集まって来るようにしないといけないねということがコンセプトでスクラムを組もうということで頑張っております。これには県庁からも会議に職員が出てきてもらっていて、いろんな交流をさせていただいています。私、今回、各大学にアンケートをさせていただいて、学生のインプットとアウトプットがどうなっているかデータを作ってみたのですが、入ってくるのは、十数大学合計で県内から62%の学生が入ってくる。県外から38%が入ってくるんですね。出て行くときは、県内に47%しか残らずに県外に53%出て行くわけです。いわば輸出型の教育をしていることで、こういう人たちが一度は出て行っても仕方ないかもしれないが、ある年齢になれば熊本に戻り、県内で定着できることが課題だろうと思います。

それからもう一点。留学生と申しますか、今、日本では大学に12万人の留学生がいますが、国・文科省は30万人構想というようなことを言っています。大学人は財政措置がない計画はなかなかやれないねという話をしてはいますが、10万人計画も当初の計画の2倍以上の期間がかかってますから、早急にできる話ではないのですが、構想が出ている限り、我々としても準備、協力をしたいと思っています。例えば、今、県内の留学生は800人程度なんですけど、3倍にするということであれば、熊本県の留学生は3,000人近くなるということ想定しなければならない。10年以上かかるかもしれませんが、我々もコンソーシアムでも考えていますけど、国際化が大学にとっても至上の問題でもありますし、熊本市、熊本県にとっても、先ほど韓国からの観光客も含めて、国際化の視点をいろんな所に入れてやらないといけないと感じています。熊本市にも言ってるんですけど、サインが全然インターナショナルになっていないんですね。県内の観光を東アジア展開するうえでは、サイン一つとってもきめ細かくしないといけないと思います。

それと、斉藤委員もおっしゃっていましたが、国際航空路線もできるだけ早い時期に、仁川、上海へは毎日飛んでいるというふうになればと思います。

【蒲島知事】

残り時間も少なくなってまいりましたが、最後に、少しだけお時間を頂戴したいと思います。ただいまお配りした資料は、県で現在4カ年の県政運営の基本方針を策定しています「くまもとの夢4カ年戦

略」の概要となっています。普通はだいたい10カ年計画なんですけども、私の任期が4年しかありませんので、4年でどこまでやれるかという計画の概要です。12月にこの戦略の策定を予定しておりますので、ご紹介させていただきます。

【内田企画課課長】

ただ今、「くまもとの夢4カ年戦略」の策定作業をしております。上段に書いてありますとおり、「時代の潮流」で6つのことを押さえまして、熊本の夢として「生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住み続けたいと思える熊本の実現」ということで、県民総幸福量の最大化を目指してやっていくということであります。

4つの分野と12の戦略と言うことで、「経済上昇」「長寿安心」「品格あるくまもと」「人が輝くくまもと」という分野を4つに分けまして、おのおの3つの戦略を掲げ、目標を設定し、重点的に取り組む施策を掲げております。

また、下の方にありますが、喫緊の課題として、非常に厳しい行財政改革、川辺川ダム問題、水俣病問題への対応、それから今、熊本市の政令指定都市誕生に向けた取り組みを行っているのですが、こういうような流れを踏まえて行いたいということで、4つの分野での重点的な取り組み、目指す姿等々につきまして、何かご意見があればというように思います。以上です。

【蒲島知事】

実際知事になってみてわかりましたが、財政難というのはとても厳しいものがあります。12月には財政再建の戦略が出ますけれども、それだけでは夢のある政策はできませんので、そのうちの一部分を、夢のある政策として4つにまとめてこのような形で進めて参りたいと思います。

ただ、経済の状況がより一層不安定になってきましたので、これによって、税収が変わるかもしれませんが、厳しい中であっていつもニコニコしながら仕事をしようと、自分自身もいつもニコニコしながら仕事しているところです。

ぜひこれからも皆さんの御協力をお願いしたいと思います。

今日は、長時間にわたって御議論いただき、誠にありがとうございました。県政にとって、そして私自身にとって非常に貴重な、そして有意義な時間を過ごさせていただきました。いただいたご意見については、十分県政に参考にさせていただきたいと思います。

また議事録については、県のホームページに掲載させていただきたいと思いますので、その前に皆さんのお目を通していただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。